

！ 中学生の声 助け合うって素晴らしい

震災後「普通の生活を送る」ということは、いかに有り難いことなのかを強く感じる事ができた。ライフラインや通信設備などの復興には多くの人に関わり、たくさんの支援物資が届き、被災した人たちも周囲と助け合いながら生活している。中学生もまた地域と共に復興に取り組んでいる。

1 震災当時の思い出（市内中学生の声）

真っ暗になり、おばあちゃんがすごく怖がって、自分も怖くなった。そうしたら、家族から笑顔が消えていった。だから、電気がついたときはほっとした。

避難所や給水所でみんな優しくしてくれてうれしかった。助け合いも普通にあって、近所の人とより親しくなれたと思う。

電気・ガス・水道・電話会社や自衛隊の人など、他県から多くの方が復旧のために働きに来ていて、いろんな県の車のナンバーが町中にあふれていた。

うちの父はガス会社に勤めているけど、朝から晩までずっと復旧のためにがんばっていた。すごいと思った。肩をもんであげたら、喜んでくれた。



全国から駆けつけたガス復旧隊

2 岩切中学校の取組～ちょボラ隊～

震災後避難所となった岩切中では、約800食の食事を先生方で準備した。猫の手も借りたい忙しさのとき、避難所で家族と過ごしていた生徒から「先生、手伝います。」という声が上がった。食料の配給、物資の運搬、清掃、独居老人宅への食事の宅配など、その活躍はめざましいものだった。先生方は彼らを「ちょボラ隊」と名付けた。自分のできるちょっとしたボランティアをする隊という意味である。

ちょボラ隊は、避難所が閉鎖されても活動を継続していった。主な活動は、手作り

プランターに植えた花を季節ごとに地域に届ける「ふるふるフラワー活動」、あいさつ運動、地域清掃活動などである。

一つの出会いは、多くの絆へとつながっていく。岩切駅からは、オランダから贈られたチューリップの球根が届けられた。手作りプランターで咲き誇ったチューリップと活動の様子の写真をお礼に送ったところ、オランダ大使館から感謝状が贈られた。また、神戸市の中学校からは、阪神・淡路大震災の時に育てたヒマワリの種が届いた。大事に育て、多くの種を採り、岩切地区が復興のシンボルで彩られるようにちょボラ隊のメッセージを添え、地域の方々や保護者の皆さんにプレゼントした。

ちょボラ隊は、多くの人から感謝の言葉をいただき、誰かの役に立つことに喜びを感じるようになった。たくさんのお会いを通し、様々な人の生き方や優しさに触れて、今日もちょっとしたボランティア活動に取り組んでいる。



かんばつざい 間伐材を利用した手作りプランター



笑顔と一緒に届けました

生徒の声

自分ももらってうれしいものを作ろうと、みんなで心を込めてプランターを作りました。触り心地がよいように、ていねいにヤスリ掛けをしました。駅などに飾ってあるのを見ると、なぜかうれしくなります。



アサガオ、フウセンカズラも一緒に

神戸市の中学校からの手紙の中に「お互い頑張りましょう」というメッセージがあった。何かお返ししたくて自分にできることをやってみた。同じ苦しみを味わった人からいただいた種なので、ていねいに育てなければと思った。岩切地区全体が復興のシンボルでいっぱいになるように取り組んでいきたい。